

平成20年度 東北地方ダム管理フォローアップ委員会 主な審議結果

1. 御所ダム定期報告

- ・適切に管理されており、問題ない。今後も適切に管理を行うこと。
- ・近年、集中豪雨による災害が多発していることから、不測の事態に備える対策を検討すること。
- ・流入支川の大腸菌については負荷源を把握するとともに、他ダムの状況等についても情報交換を行い対策を検討すること。
- ・湿地の植生について今後のモニタリング調査を実施すること。
- ・外来種については関係機関と情報共有を行い、生息状況の把握に努めること。

2. 釜房ダム定期報告

- ・適切に管理されており、問題ない。今後も適切に管理を行うこと。
- ・貯水池の堆砂の進行状況について今後も注意して監視するとともに、下流河道の環境変化についても把握すること。
- ・水質については今後も効果的な対策とその効果検証を継続すること。
- ・洪水調節効果については簡易的な手法だけでなく、より正確な計算による効果の表現手法を工夫すること。

3. 白川ダム貯水池水質保全事業の事後評価

(事業の効果の発現状況)

- ・ 法面对策や床止め、護岸工の設置により白川ダム周辺の裸地・崩壊地の面積は減少し、さらに緑化等による植生の回復により、景観的にも良好な状態となっていることから、事業の実施効果は十分発現している。

(今後の事後評価の必要性)

- ・ 再度の事後評価を行う必要性は認められない。

(改善措置の必要性)

- ・ 改善措置の必要性は認められない。

(同種事業の計画・調査のあり方や事後評価手法の見直しの必要性)

- ・ 今後、ダム貯水池水質保全事業（直轄総合水系環境整備事業）に関する費用対効果分析手法について、更に検討する必要がある。

4. その他

- ・ 水源地域ビジョン策定後の活用方法や活性化について、常にフォローアップしていくこと。